

令和5年3月31日

## 令和4年度 東京都立世田谷総合高等学校 学校経営報告

## 1. 今年度の取組と自己評価

## (1) 教育活動の取組と成果

教育活動の目標・具体的な取組	成果・自己評価
<p>○キャリア教育、教科指導の充実</p> <p>○各教科指導・第二外国語の充実</p>	<p>○今年度からの観点別評価の導入において、年間授業計画や単元指導計画の作成を進めた。また、観点別評価の総括方法について、校内での一定の共通理解を図り、実施できている。</p> <p>校内研修を通じて、授業評価、授業研究の一元化を目指し、授業力向上に向けて組織的に取り組んだ。</p> <p>系列の在り方を整備し、希望進路との関わりを踏まえた受講ガイドを作成した。</p> <p>○新教育課程において、英語の4技能の向上に向けて講座内容を精査するとともに、第二外国語の新1年への導入に向けて、国際理解教育の充実を高めた。</p> <p>○英検合格率 2級 9人(令和3年度6人) 準2級 33人(令和3年度0人)</p>
<p>○基本的な生活習慣の確立(毎朝の正門指導や毎学期の全校態勢で実施する頭髪服装検査、及び全教員による日常的な声掛けなど)</p> <p>○部活動及び生徒会活動の活性化。(ホームページのこまめな更新・中学生対象の部活動体験行事・生徒会のボランティアチームによるベンチの製作など)</p>	<p>○頭髪服装検査における要指導者は、全校で毎回3~5名程度で、全体的に落ち着いた様子が窺える。次年度は日常的な指導においても生徒部教員が積極的に関わっていくやり方を構築していきたい)</p> <p>○今年度におけるダンス部の全国大会2位入賞や、吹奏楽コンクールにおけるc組金賞受賞等の大きな成果により、他の部活動も刺激を受けてより活性化されていくことが期待できる。また、生徒会の活動が近隣の中学校や、世田谷区教育委員会と連携することができ、形に残る成果が見られた。</p>

<p>○総合学科高校としての特性を生かしながら、生徒の高い志の育成に尽力する。</p> <p>○3年間の進路指導計画は、すべての職員が共有するものとし、各学年担任団・教科担当・進路部が深く連携し情報共有を図る。</p>	<p>○1年次キャリアデザインや2年次総合における職業人インタビューやフィールドワーク、ビジネスプランコンテスト等において、自ら問いを立てる活動を取り入れ、3年次での課題研究や進路実現につなげる能力の育成を図った。</p> <p>○職員には、1年次キャリアデザイン、2年次総合における授業連携、外部模試やキャリア面談における情報共有、課題研究指導に関する教員研修など、あらゆる場面において情報共有を推進した。</p>
<p>○オンラインを活用した広報活動</p> <p>○事前予約制・定員制による広報活動</p> <p>○入選募集倍率の向上</p>	<p>○世田谷総合高校YouTubeチャンネルの再生回数は増加しており、中学生や保護者への認知度は高い。</p> <p>○事前予約制・定員制により、体験授業・学校見学会・授業公開・学校説明会等を安心・安全に実施できた。</p> <p>○推薦応募倍率2.44倍（令和3年度2.26倍） 学力応募倍率1.30倍（令和3年度1.13倍）</p>
<p>○保健相談やカウンセリング体制を教職員・保護者に対して可視化し、相談体制を整える。</p> <p>○発達障害等に関する情報・知識を共有し、適切な対応が出来る特別支援体制を整える。</p> <p>○自殺予防に関する取り組みを推進する。</p>	<p>○入学時オリエンテーションにてSCの紹介、SCによる1年次全員面談、カウンセラーだよりを毎学期当初に発行すること等により、SCを身近に感じてもらい、相談しやすい体制を整えた。</p> <p>○発達障害に関する情報や知識、合理的配慮が必要な生徒の対応を全職員へ周知し、組織的に特別支援委員会を開催し、全教職員で取り組んでいる。また今年度開始した通級への取り組みについて、今年度の状況を見ながら令和5年度に向けて、新体制を構築している。</p> <p>○長期休業前には心身の悩みが相談出来る場所として学校だけではなく、外部相談機関の相談案内を周知し、生徒が相談しやすい場所に相談できるよう働きかけた。</p>
<p>○経営企画室においては学校経営目標を十分に反映した予算編成と適正な事務を執行し、企画・経営参画を積極的に行う運営を目指します。</p>	<p>○学校経営計画に則り、世田谷総合高校の特色を出すため、国際交流事業に重点的に予算を執行した。また、総合高校ならではの特色を出せるように、ものづくりや美術に重点的に予算を執行した。</p>

## (2) 重点目標への取組と成果

重点目標・具体的な取組み	成果・自己評価
<p>○学校を上げて、教科横断、分掌横断的に取り組む事柄</p> <p>○キャリア教育の一層の推進（生徒のキャリア教育満足度90%）</p> <p>校内研修を充実させ、キャリア教育の在り方を十分に理解し、研鑽を積みながら、教科指導を通じた実践指導を行う。教科間連携を密にし、生徒による課題研究の取組みを多角的に支援する。</p> <p>○授業満足度90%</p> <p>各教科の指導目標、指導計画を教科内で共有し、生徒一人一人の学力向上を図る体制を作る。各教科が生徒に達成させる目標と、教員が達成する目標を挙げ、それに向けて取り組む。教員相互の授業参観、生徒による授業評価、他校の優れた授業見学等を通じて日々の授業をより良くする。グローバル化に対応できる生徒の育成を図るため、英語教育のさらなる改善・充実に努め、多民族社会をターゲットとした海外研修に関する検討を早期に進める。</p>	<p>○令和4年度90.6（令和3年度89.8%）</p> <p>○授業関連項目の成果は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味関心・進路に合った選択科目が整備されていると思う。令和4年度94.8%（令和3年度94.2%）</li> <li>・学校は、授業で生徒一人一人を大切にした指導を行うことに熱心に取り組んでいると思う。令和4年度82.8%（令和3年度78.0%）</li> </ul> <p>国語科では生徒が達成させる目標として図書館活用促進を啓発したが、活用率の増加に至らず、今後の工夫が必要とされる。地歴・公民科では教科会内で研修会を9回持つことができ、オンライン授業の方策や授業評価の内容を共有し授業実践をした結果、授業評価アンケートにおいて9割の肯定的回答を得た。（教科抜粋）</p> <p>海外学校間交流推進校として、トルコ（イズミール）、インドネシア（ジャワ）、韓国（ソウル）との学校間交流がオンラインで実現できた。また、フィリピンの多言語話者をよび、生徒とのフリー特を実施した。生け花インターナショナルの参加により、海外の大使に本校について関心を持っていただけた。ルワンダについては大使の来校や、式典への生徒の参加依頼をいただけた。また、ベトナムの公立高校と連携し、次年度の研修旅行の企画に着手できた。</p>
<p>○いじめ・体罰0件。（全校アンケートの実施及び日常的な聞き取りなど）</p> <p>○部活動加入率80%（部長会等を通じた活動環境の整備や活性化など）。</p> <p>○生活指導方針の生徒理解度80%。（毎学期の全校生徒への配布物や定期的な教室掲示など）</p> <p>○重大事故事案発生件数0件。（関連する学校行事や参考資料の配布・日常的な声掛けなど）</p>	<p>○学校が確認したいじめ件数0件（指導の成果として評価できる）</p> <p>○部活動加入率 令和4年度73.0%。（令和3年度72.0%）（退部者をいかに減らせるかが課題）</p> <p>○生活指導方針の生徒理解度 令和4年度79.9%（令和3年度78.2%）</p> <p>○重大事故事案発生件数は0件（セーフティー教室やSNS利用講習会等、さまざまな学校行事や集会時の指導を通して目標をクリアできた。次年度も引き続き取り組んでいく）</p>

<p>○学習指導において、すべての教員が総合学科におけるキャリア教育の在り方を十分に理解し、その手法について絶えず研鑽を積みながら、学習活動領域におけるあらゆる場面をとらえて実践指導を行う。そのために、キャリア教育に関する教員の研修を十分に行う。</p> <p>○進路指導において、進路説明会、進路検討会を通じて全教職員が共通理解・認識を持って進路指導に取り組める体制を整えます。特に進路部と各年次が良く協調し、効果的かつ計画的な進路指導ができる体制を整える。</p>	<p>○1年次キャリアデザインや2年次総合での指導について、毎週の打ち合わせで情報共有を図るとともに、副担任が交代で授業を行ったり、問い立ての手法を取り入れたりして、指導体制を整えた。次年度に向けてNPOの投入により、課題研究の指導に関する進路部の指導体制を再構築した。フレッシュマンセミナーにおける見直しに着手できた。</p> <p>○3年間の進路指導計画やキャリア教育目標、産社・総合・課題研究の年間計画を年度当初に示すことによって、教職員間の共通理解の推進や系統的指導に資する体制を見直し、外部人材の投入を検討中である。</p>
<p>○学校の様々な魅力をより具体的に発信</p> <p>○施設・設備を活用した授業公開や施設見学、多様な選択科目の公開などを積極的に実施</p> <p>○動画を活用した、ホームページ等のメディアを最大限に活用</p>	<p>○学校説明や行事紹介の動画を頻繁にアップできた。HP更新回数450回（令和3年度362回）</p> <p>○体験授業・学校見学会（各2回）、授業公開（2回）、学校説明会（3回）、入試相談会（1回）の実施に加え、塾対象の学校説明会を実施した。</p> <p>○ホームページ、YouTube、Twitterの活用に加え、学校案内パンフレットの送付を年間約100件、管理職による塾訪問80校を実施できた。</p>
<p>○重大事故事件発生数を0にする。</p> <p>○スクールカウンセラーとの連携を強化し、校内研修を活用しながら、学校全体の教育相談力を向上させる。</p>	<p>○重大事故事件発生数0。相談体制や自殺予防に関する取り組みの成果と考えられる。</p> <p>○スクールカウンセラーとの打ち合わせを密に行い、連携して対応した。必要時、特別支援コーディネーターも交えて情報共有と対応の検討を行い実践した。また、カウンセラー・通級支援員を活用して特別支援会議を定例で12回実施した。また、校内研修を通して、全教職員の共通理解に努めた。</p>
<p>○自殺予防を組織的に取り組む。</p>	<p>○スクールカウンセラーや担任、部活顧問等との連携により生徒のSOSを見逃さず、異変があった際はカウンセラーに繋ぐ、カウンセラーへ相談があった生徒だけでなく、保護者についても担任や学年、保健部や生徒部等様々な教員が見守る体制で生徒を支援した。</p>

<p>○都民公開講座の実施3種類3講座 (R2年度:0件、R3年度:3件)</p>	<p>○都民公開講座の実施3種類3講座を開催した。 (1)陶芸教室初級から中級・・・12名(令和3年度は7名) (2)伝えるための英会話・・・4名(令和3年度は6名) (3)フランス語超入門・・・8名(令和3年度は8名)</p>
---	--

## 2. 次年度以降の主な課題と改善策

### (1) 主な課題

- 総合学科としての6系列のカリキュラムについて、中学生や地域に十分アピールできていない。
- 授業改善について、教科会の充実化による教員のボトムアップが十分とは言えない。
- 特別専門講師市民の活用について、生徒の進路に生かし切れていない部分がある。
- SNSトラブルが見受けられる防災教育を含め、安全教育を充実させる必要がある。
- 課題研究の成果を活用した進路指導の実現化について、指導方法や時期を検討し、実践する必要がある。
- キャリアパスポートを活用できていない。生徒の入口調査と出口S調査の詳細調査と分析が必要である。
- 総合学科の特徴的な授業を中心とした教育活動の様子を十分に情報発信できていない。
- 出前授業の回数が激増したが、教員の負担に偏りがある。
- 施設改修の必要部分が多い。

### (2) 改善策

- 国際理解教育でアピールできる第二外国語の充実化を図り、カリキュラムを軌道に乗せる。
- カリキュラム・マネジメントの一環として教科会を充実させる。
- 生活指導規定を検討し続けるとともに、外部人材を活用した講習会を実施する。
- 外部教材の活用、模試、検定、講習の見直しと実践をする。
- キャリアパスポートをクラウド管理し、総合型選抜や就職活動等の進路選択で活用する。
- ホームページ、Twitter、YouTubeに加えInstagram等で情報発信をし、全教職員及び生徒・保護者が協力してコンテンツを作成する体制を構築する。
- 進路実現に即した受講ガイドの編成を検討し、実践する。
- 学校説明会における塾教員等の参加を企画し、広く学校の教育活動を周知する。

以上